

本時の視点	対義語の特徴を正しく理解し，語彙を広げ，表現に役立たせるための指導の工夫
-------	--------------------------------------

第3学年1組 国語科学習指導案

指導者 T1 野口 紀子
T2 廣沢めぐ美

1 単元 反対の意味の言葉で遊ぼう

2 目標

対義語に興味・関心をもち，進んでそれを使おうとする。（国語への関心・意欲・態度）
 対義語を使って短文を書くことができる。（書く能力）
 対義語を理解し，その性質に合わせて分類することができる。
 （言語についての知識・理解・技能）

3 単元について

(1) 教材観

本単元は，対義語について理解したり，対義語をその性質に合わせて分類したりすることで，語彙力を伸ばし，言葉の意味について考えるきっかけをつくることを主なねらいとしている。例文をもとに対義語の概念を押さえ，その中で具体的な例を挙げて，対応が1対1でない場合の理解を促し，最後はゲームなどを通して，より興味深くたくさんの対義語が学べるよう工夫されている。

また，国語辞典を使った調べ学習を組み入れることで，3年1学期に学習した「国語辞典の使い方」の学習を補えるようになっている。

(2) 児童の実態

児童は話すことが大好きで，常に友だち同士の会話が絶えない。同様に書くことにも抵抗はあまりなく，進んで日記を書いたり，読書の感想を書いたりすることができる。知らない言葉に対する好奇心も旺盛で，「国語辞典の使い方」の学習では意欲的に辞典を引く姿が見られた。

しかし，まだ3年生ということで，実際に使える語彙の数は少なく，普段使っている言葉の意味も正しく理解しているとは言えない。

授業をするに当たって行った児童の実態調査の結果は，次の通りである。

（平成20年9月24日 男子24名，女子14名，計38名）

1 () の中に反対の意味になる言葉を入れて文を完成させましょう。

AのえんぴつはBのえんぴつより()。 正答38名，誤答0名，無答0名

BのえんぴつはAのえんぴつより()。

家の中ではコートを()。 正答32名，誤答5名，無答1名

家の外ではコートを()。

しょうこう口でくつを()で，うわばきを()。

正答32名，誤答2名，無答4名

2 あなたが知っている反対の意味の言葉を書きましょう。

11組以上3名，6組～10組5名，1組～5組23名，0組7名

3 国語じてんで言葉をさがしたり調べたりするのは好きですか？

はい19名，いいえ12名，わからない7名

4 家や学校で国語じてんを使って言葉さがしをすることはありますか？

よくする3名，たまにする14名，あまりしない21名

調査の結果から，ほとんどの児童は対義語の概念をとらえることはできていることが分かる。しかし，その語彙数は個人差が大きく，ほとんど自力では書くことができない児童が7名いた。漠然と「対義語を挙げる」といわれても出てこないということが分かる。対義語を正しく理解するためには具体的な場面を示す等の工夫が必要と思われる。

国語辞典に関する意識調査では、使うこと自体には興味をもっているが、実際に使用するという場面は普段の生活の中では、あまりないということが分かる。

(3) 指導観

児童に言葉に対する探究心をもたせ、意欲的に言葉調べに取り組めるよう、国語辞典を効果的に使ったり、クイズ作り等を取り入れたい。特に国語辞典に関しては、常に身近に置き、必要に応じてすぐ開く習慣を付け、その有用性に気付かせたい。

また、クイズ作りに関しては、対義語を使って自分で書いた文をもとにしてクイズを作り、それを出し合う形にしようと考えた。単語としての対義語ではなく、実際に文の中に置くことにより、対比されている場面が目の前に浮かんでくるようにしたかったからである。同時に、自分の言葉として使用することで、使える語彙を増やすことにもつながると考える。

本時では、クイズのもとになる短文を作る活動が中心である。短いとはいえ、作文の学習は個人差が大きくなることが予想される。そこで、一人一人の書く力にきちんと応じた指導をするために、TTの形をとっている。また、ワークシートやヒントカードの作成も工夫し、誰もが意欲をもって取り組めるような活動にしていきたいと考えている。

以上のような学習を通して、児童の語彙力が伸び、言葉に対する興味が一層深まることを期待する。と同時に、国語辞典の使い方に慣れ、進んで使うことのできる児童を育てていきたい。

4 指導と評価の計画

次	時	目 標	主な学習活動	個を生かす指導	評価規準					
					関	話	書	読	言	
1	1	反対の意味の言葉の概念を理解し、言葉集めをすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 対義語には3つの種類があることを知る。 対義語の言葉集めをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語辞典を使うことで、言葉集めに興味をもって取り組めるようにする。 		/		/		
	2	反対の意味の言葉の特徴を知り、それを正しく使って、短文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 対義語の特徴を知る。 対義語を使って短文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 動作化や、色分けなどで、特徴をとらえやすくする。 ワークシートの活用を図り、できるだけたくさんの文を作れるようにする。 		/		/		
	3	クイズやゲームを通して、言葉への興味・関心を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 短文を使ったクイズや対義語を組み合わせるゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分でクイズを作ったり、友達の作ったクイズに答えたりする中で様々な言葉に触れる楽しさを味わえるようにする。 		/		/		

5 本時の指導

(1) 目 標

対義語の特徴を知り、場面や様子を思い浮かべながら、正しく使って短文を書くことができる。

(2) 展 開

(は個に対する配慮, は評価の視点)

学習内容・活動	準備資料	支援の手だてと評価	
1 本時の学習課題を確かめる。 全(2分)	ワークシート 国語辞典	T 1	T 2
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 反対の意味の言葉を正しく使って文を作ろう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> 課題を大きな声で読むことで学習への意欲を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 集中することが苦手な子に励ましの言葉かけをする。
2 対義語の特徴について話し合う 全(15分)		<ul style="list-style-type: none"> 対義語が、3つの観点に分けて考えられるよう、色分けしたカードを使う。 	
(1) 観点ごとに3つに分類できる。 ・方向や関係が反対なもの ・様子や性質が反対なもの ・人や物事の動きが反対なもの (2) 特別な対応関係がある。 ア 1対1対応となる 「上」と「下」 「勝つ」と「負ける」など イ 1対1対応とならない 「着る」と「ぬぐ」 「はく」と「ぬぐ」など	対義語のカード 帽子2つ 靴2足 上着2着	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習をもとに、対義語を分類して発表するよう促す。 アの関係の言葉を動作化して、対応が1つであることが理解できるようにする。 「上」をさしたり、ジャンケンで勝つ動作をしたりする。 イの関係の言葉を動作化して、対応が2つ以上あることが理解できるようにする。 (帽子を)ぬぐ,(靴を)ぬぐ,(服を)ぬぐ等の動作をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表された対義語のカードを黒板に貼付していく。 アの対応が1つであることを理解できるようにする。 「下」をさしたり、ジャンケンで負ける動作をする。 イの対応が2つ以上あることを理解できるようにする。 (帽子を)かぶる,(靴を)はく,(服を)着る等の動作をする。
3 対義語を使って短文を書く。 個(25分)		<ul style="list-style-type: none"> 対義語の分類の仕方や対応関係が分かる。(言語)ワークシート・観察・発表 	<ul style="list-style-type: none"> 例文を見ながら、短文の作り方を確認する。
(1) 書き方を確かめる。 例 ・夏休みは()。 ・冬休みは()。	例文のカード	<ul style="list-style-type: none"> ()にてはめる言葉をいろいろ変えることで、全く違う文になることにも気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きな言葉を使って、自由に書いてよいことを伝える。
(2) 短文を書く。 ・夜は()。 ・昼は()。 ・サッカーは(), だけど、泳ぐのは()。	ワークシート ヒントカード	<ul style="list-style-type: none"> 場面や様子を思い浮かべると、反対の言葉に気付けることを助言する。 書けないでいる児童には、途中まで書いてある文を提示し、続きを考えることで、文を完成させられるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> よい文が書けた児童には、付箋紙を渡し、清書して、黒板に貼付するよう指示する。 書けないでいる児童に、実際に動作をしてみることで場面を理解できるように支援する。
(3) 発表する。	付箋紙	<ul style="list-style-type: none"> 対義語を正しく使って短文を書くことができる。(書く)ワークシート 友だちの作った文とを自分の作った文と比べたり、友だちの文作りの工夫を聞いたりして、読む人に分かりやすい表現の仕方を確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> よい文が書けた児童には、付箋紙を渡し、清書して、黒板に貼付するよう指示する。 書けないでいる児童に、実際に動作をしてみることで場面を理解できるように支援する。
4 本時のまとめをする。全(2分)		<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、分かったことをまとめたり、自己評価したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな工夫をしたかや絵が役に立ったことに気付けるよう支援する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> 反対の言葉は1つだけではない。 場面や様子を思いうかべると、反対の言葉が見つかりやすい。 </div>	自己評価カード	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの作った文とを自分の作った文と比べたり、友だちの文作りの工夫を聞いたりして、読む人に分かりやすい表現の仕方を確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> どんな工夫をしたかや絵が役に立ったことに気付けるよう支援する。
5 次時の学習課題を知る全(1分)		<ul style="list-style-type: none"> 本時で作った文をクイズ形式で発表し合うことを知らせ、次時への意欲付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時で作った文をクイズ形式で発表し合うことを知らせ、次時への意欲付けをする。

1 () の中に反対の意味になる言葉を入れましょう。

AのえんぴつはBのえんぴつより()。

BのえんぴつはAのえんぴつより()。

家の中ではコートを()。

家の外ではコートを()。

しょうこう口でくつを()で、上ばき()。

2 あなたが知っている反対の意味の言葉を書きましょう。

* (上)と(下), (明るい)と(暗い), (立つ)と(すわる)など

()と() ()と()

()と() ()と()

()と() ()と()

()と() ()と()

()と() ()と()

()と() ()と()

()と() ()と()

()と() ()と()

* もっと考えついた人はうらに書きましょう。

3 国語じてんで言葉をさがしたりしらべたりするのは好きですか？

・・・ はい いいえ わからない

4 家や学校で国語じてんを使って言葉さがしをすることはありますか？

・・・ よくする たまにする あまりしない